

Q & A

インターネット経由での利用者からの相互貸借申込受付

Q：インターネット経由で利用者から相互貸借の申込みを受付ける場合の、システム・業務のながれについて、メリット・デメリットを含めて教えてください。（T大学図書館司書）

A1：新潟大学附属図書館では、平成8年10月より、「資料発注システム」によるオンラインでの図書・雑誌の購入依頼および文献複写依頼の申込受付サービスを開始した。

本システムは、当学が現在使用している（株）リコーの図書館情報システム LIMEDIO の機能を補完するものである。本システムでは、WWW ブラウザを利用し、「利用者用」および「管理者用」のホームページで利用登録申込、図書購入・文献複写の依頼、利用者情報の管理、帳票の管理を行う。

また、依頼内容の送付・確認手段として電子メールを使用している。利用者から、図書購入・文献複写の依頼を受け取り、LIMEDIO のワークステーションに接続されているプリンタに帳票として出力する（図1：参考文献1）より引用）。

以下、「文献複写依頼」を例としてシステムの流れを簡単に説明したい。

1. システムの流れ

1) システムの利用申込み

本システムを利用する場合、まず利用者登録を行う。WWW ブラウザを利用して「資料発注システム」のホームページ（図2）にアクセスする。「資料発注システムの利用申込」のホームページ（図3）を開いて利用申込みを行う。

システムが利用申込みを受け付ける（仮登録）と、申込み確認書を自動作成し、申込者に電子メー

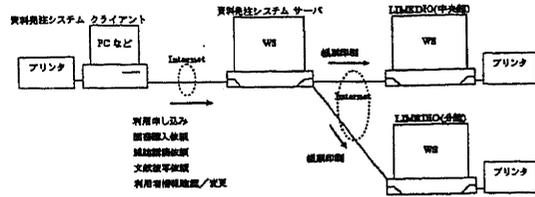


図1. 資料発注システム

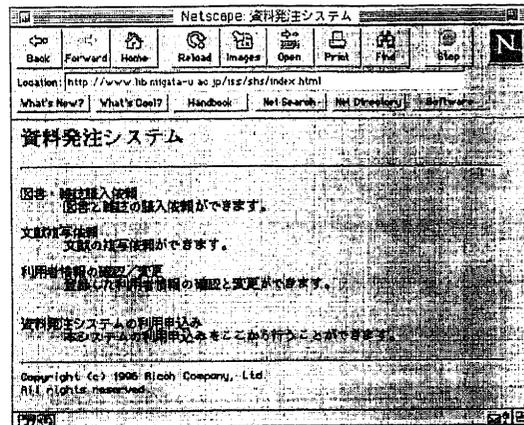


図2. 「資料発注システム」のホームページ

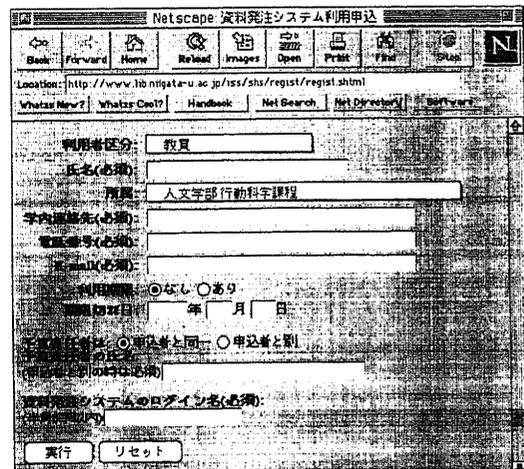


図3. 「資料発注システムの利用申込」のホームページ

ルで送付する。申込者は確認書をプリントアウトし、押印の上、図書館のシステム管理者へ提出する。

システム管理者は、確認書受理確認後、利用の可否を決定し、「資料発注システム管理」のホームページを開き、利用者登録の正式登録化を行う。正式登録化が完了すると、システム利用時のパスワードが記入された正式登録通知が電子メールで申込者へ送付される。

2) 「文献複写依頼」申込方法

図2のホームページから「文献複写依頼」をクリックする。

ログイン名とパスワードの問い合わせに対して入力すると図4のホームページが表示される。

雑誌名、巻、号、頁等の必要事項を入力後、同ページ下の「実行」ボタンをクリックすると、依頼内容の電子メールがあらかじめ指定したメールアドレスに「依頼メール」として送信されるとともに利用者宛にも通知される。

3) 依頼メールの確認と帳票のプリントアウト

利用者からの依頼を受け取るとLIMEDIOのワークステーションに接続されているプリンタに帳票

(文献複写申込書)として出力する。帳票は、利用者の所属により、中央館ないし分館のプリンタに出力される。

依頼メールの内容は中央館、分館のワークステーションで開いて確認する。依頼メールの記述をコピー&ペーストで、ILL画面に入力することができる。

2. システム導入による業務の変化

本システムの導入前後で、業務上特に大きな変化はない。

複写料金の受け取り等の事務手続き上、やはり帳票のプリントアウトは必須であり、現時点では本システムの導入がペーパーレス化につながってはいない。

3. システム導入によるメリット・デメリット

1) メリット

- 図書館へ足を運ばなくても、研究室等から申込みが可能になった。
- 図書館のサービス時間外でも利用できる。
- 申込みのメールの記述をコピーしてILLでの申込みを利用できる。
- 申込書が非常に読みやすい。文字が汚くて読めないということがないし、論題と資料名、巻と頁が判別できないということもない。
- メールに対するリプライで、問い合わせや到着の連絡も可能である。研究室になかなか電話連絡のつかない時、電話で説明するには内容が複雑な時など便利である。

2) デメリット

- デメリットは特になし。強いてあげれば、利用者の管理(仮登録から正式登録への切り換え等)が必要。
- メールに対するリプライ機能使用時にViエディタで行うため多少複雑で慣れが必要である。文献到着時の連絡は、まだ電話連絡が主。

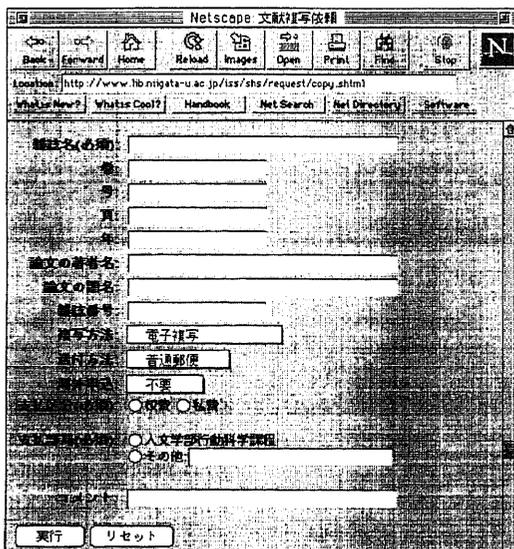


図4. 「文献複写依頼」のホームページ

4. 利用者の反応

本システムの利用者は、本学の教員、職員、大学院生、研究生に限定しているが、システム運用開始から1年少し経過した平成9年12月1日現在、システム正式登録者は全学で295名に上っている。うち、医学系の部局のある旭町地区での正式登録者数は138名である。

また、利用件数（運用開始から1年間の合計）は、

- ・図書・雑誌購入依頼 915件（0件）
- ・文献複写依頼 2,801件（1,424件）

となっている。件数は全学の合計。括弧内は医学系分館である旭町分館の内数。件数のカウントには利用者の操作ミスで同じ申込みが複数回あった等の事情は反映されていない。

利用者からも、研究室から簡単に申込みが可能になったと大変好評である。

参考文献

- 1) 資料発注システム管理者マニュアル, (株)リコーソフトウェア事業センター; 1996 (非売品).
- 2) 資料発注システム利用者マニュアル, (株)リコーソフトウェア事業センター; 1996 (非売品).

(新潟大学附属図書館旭町分館 高橋 千夏
chika@medlib.lib.niigata-u.ac.jp)

A 2 : 神戸大学附属図書館では、1997年4月より電子メールによる文献複写申込み受け付け（資料借り受けも含む）を始めました。利用できるのは、学内に電子メールのアドレスを持つ教官・職員です。医学部分館ではそれに加え、院生も利用できることとしました。自然科学系図書館（理学部・工学部・農学部・自然科学研究科に対応している）では、文献複写申込みのうち4割が電子メールで送られてきたということでしたが、医学部分館では1割弱というところでした。図書館の立地条件の違いと、仕事上パソコンをどの程度利用して

いるかの違いによるものと思われます。

申込みの様式は図書館で作成し、取り込み方法を「神戸大学附属図書館報」と「図書館だより」（医学部分館のニュース）、インターネットの図書館のホーム・ページで知らせています。

業務の流れは、

1. 申込み画面をコピーする。
2. “受け取りました。医学部分館”とメッセージをつけて返送する。
3. ILL で申込む。
4. 文献（資料）が届いたら、チェックの後“届きましたので取りにおいで下さい。”とメッセージを送る。
5. 問い合わせや“入手不能”の時もメールを送る。

電子メールで図書館へ学外文献の申込みができます

研究室にいながら学外文献の複写申込みができるようになりました。
(教官・医員・研修医・院生のみです。)

○フォーマットは次の通りです。それぞれ取り込んでご利用下さい。
ftp://ftp.lib.kobe-u.ac.jp/pub/FUKUSHI/format.jls (Jlsコード)
format.sj (SHIFT Jisコード)

○電子メール申込みのアドレスは igaku@lib.kobe-u.ac.jp です。
○http://www.lib.kobe-u.ac.jp/igakuのなかの目録で検索の上、
医学部分館に所属していない場合のみお申し込み下さい。
○1論文ごとに (ポスト) してくださいね。
○文献が届き次第メールでご連絡致します。



「図書館だより」第17号 (H9. 6. 9)

To: _____
From: _____
X-Sender: _____
Subject: 文献複写申込 (申し込み例)
MIME-Version: 1.0
Content-Type: text/plain; charset=iso-2022-jp
X-Mailer: Eudora-3(1.3.8.5-J13)

文献複写申込書 (1論文ごとに1枚ずつ作成のこと)

氏名: _____
学部・学科・講座名: 医学部精神神経科学講座
E-mail: _____
連絡先: (内線番号又は自宅) _____
姓・名: () 国費 () 私費
資料名: Am-J-clin-fupn.

巻号頁: 35巻 1号 47頁 ~ 61頁, 1992年
著者名: Miller-SD; Triggiano-PJ

論題: The psychophysiological investigation of multiple personality disorder: review and update.

典拠: ISSN, ISBN: 0002-9157
学術雑誌総合目録: P.
MEDLINE: No. 93071787
N: 検索: No. BA: No. AA:
その他: _____

備考1: 迅速希望
備考2: 原則として国立大学に依頼しますが、国立大学に所蔵のない場合
国内・国立大学以外の校費
国外申込みの校費
私費
なお、当該図書館に所蔵があれば、申込みはできません。

というところですが。

3枚複写の申込用紙を、電子メール画面のコピーに変えただけなので、業務としては従来どおりです。申込み画面からILLの画面に切り替えることができ、また、経費の組み替えもできるというようなことになれば、“ペーパーレス”も夢ではなくなるかもしれません。しかし、医学部の特殊事情として、私費での文献取り寄せが大部分なので、そうそうは変わらないと思います。

利用者にとっては“研究室に居ながらにして”申込みができる、というのは大きなメリットだと思います。「欲しいと思ったときに、すぐ申し込

めるのは非常に便利です。」と、利用される先生はおっしゃっています。

図書館員にとっては、来館申込みと電子メールという2つの方式が混在するのは煩雑ですし、電子メール分は現金収納書類作成用（国立大学独自のもの？）にコピーが必要です。しかし、癖のある文字（?!）を判読する苦労がなくなったことと、問い合わせや到着連絡の時、先生方に連絡がとれなくて苦勞していたのが、電子メールだと確実に連絡できるようになったことがメリットと言えらると思います。

（神戸大学附属図書館医学部分館 野上 明美）